ステップ3　探究：もっと調べてみよう（13時限）

主な子どもたちの活動	先生の主なサポート
もっと調べたいことを考える ○ウォッチングの発表を見て、感想や関心をもったことをワークシートに記入しました。	●調べたいことを書くワークシートを提供した
テーマ別にグループをつくる ○先生がつくったテーマとグループ分けの案を見て、自分の希望に添っているか確認をしました。 ○グループでリーダーを決め、調べたいテーマを考え、調べる方法や役割分担を話し合いました。	●今後、調べるテーマとグループ分けの案を作成 ●子どもたちの意欲的な学習を促すため、調べたい理由（動機）をはっきりさせるよう助言した ●テーマ設定にあたっては、今の景観になるまでの人々の努力や思いに配慮するよう助言した
まずは自分で疑問を調べる ○図書室や市内の図書館で文献調査したり、インターネットで情報・資料を収集しました。 ○子どもどうしで相談して、休日に調べに行ったグループもありました。	●学習の見通しをもつため、先生側でも事前に情報を収集した
行政機関などに疑問を尋ねる ○自分たちで調べきれない疑問について、市の郷土資料館や市役所、道庁などに尋ねることとし、文面を考え、照会文を作成しました。 照会先：江別市役所、江別河川事務所、北海道百年記念塔の設計者、野幌森林公園事務所、北海道庁　など	●適切な照会先の選定 ●照会先から電話での聞きとり、お願い文を添えて照会文を送付した
現地取材 ○もっと詳しく知りたいことを整理して、それぞれのテーマに詳しい人たちに会いに行き、取材をしました。 取材先：野幌森林公園事務所、酪農学園大学研修館、セラミックアートセンター、大麻中央公園の自然と親しむ会、旧町村農場、郷土資料館、江別河川事務所	●取材先の設定・日程調整、バスを手配した ●取材活動の引率には、担任と担外のほか、今回は景観学習プログラム作成にかかわった専門家が加わった（建築士）

景観学習　テーマ・調べる内容・方法を考える
5年　組　名前（　　）

2．レンガ　（9人）
○　わかったこと
・セラミックアートセンターには、外国のレンガが展示していた。
・レンガでできたトイレがあった。
・江別市はレンガのまちで、いろんなところで利用されている。
●もっと調べたいこと
・江別ではレンガで建てられた建物はどこに、どんな建物があるのか。（佐藤m、大市、佐藤n、小椋）
・なぜレンガを利用して建てたのか、他の建材と比べて良いところ、悪いところを調べたい。（佐藤m、大市、長谷川）
・江別のレンガが有名になったわけを知りたい。（長谷川、小椋）
・昔と、今のレンガの作り方の違いを調べたい。（大巻、中川、佐藤m）
・実際にレンガを作ってみたい。（中川、大市）
・レンガで建てられた一番最初の建物は何かを調べたい。（郡司）
・レンガで建てられた建物の中で、1番好きな建物を見つけたい。（郡司）
・今と昔のレンガには違いがあるのかを調べたい。（大巻、佐藤n）
・外国のレンガとの違い、外国のレンガで建てられた建物を調べたい。（山田）

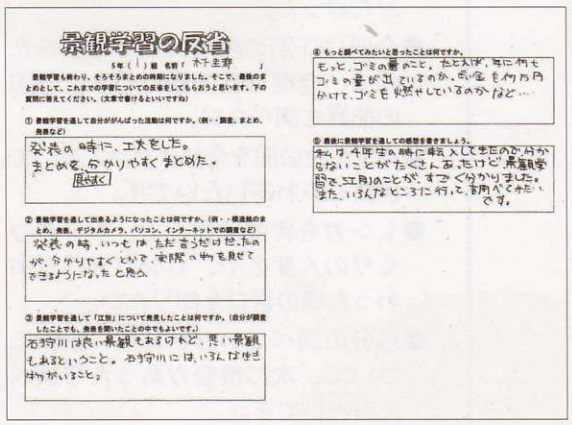
1．メンバーの確認
2．リーダーの選出
3．テーマを考える
4．調べる内容の整理、確認
5．内容に合わせて、調べる方法を考える
6．まとめ方を考える（かべ新聞、パソコン、紙芝居、劇、その他）

＜テーマとグループ設定＞

○百年記念塔（1グループ）　○レンガ（3グループ）
○石狩川（5グループ）　○江別の今と昔（4グループ）
○公　園（2グループ）

大麻中央公園の自然と親しむ会の方から取材

ステップ4 まとめ・評価（8時限）

主な子どもたちの活動	先生の主なサポート
景観学習のまとめ ○取材や景観学習全体を通して分かったことをグループごとにまとめ、ポスターを作成しました。 	●動機や目的、分かったこと、感想、反省など順序よく組み立てるよう助言した ●ポスターのレイアウトについて、関心を引く見せ方を工夫するよう助言した
まとめの発表 ○まとめたポスターは、ポスターセッション形式で発表し合い、質問や意見を交換しました。 ○全校朝会でもポスターセッション形式で発表しました。 ○地域が主催する大麻・文京台青少年ふれあいフェスタでは、景観学習全体の成果を学年の代表10人が発表しました。	●学んだ江別の景観を全校児童、地域の大人に向けて発表する場を設けた
景観学習を振り返る  景観学習の反省 5年（1）組 名前「木下主寿」 景観学習も終わり、そろそろまとめの時期になりました。そこで、最後のまとめとして、これまでの学習についての反省をしてもらおうと思います。下の質問に答えてください。（文章で書けるといいですね） ① 景観学習を通して自分ががんばった活動は何ですか。（例・・調査、まとめ、発表など） 発表の時に、工夫をした。 まとめを、分かりやすくまとめた。 良やすく ② 景観学習を通して出来るようになったことは何ですか。（例・・模造紙のまとめ、発表、デジタルカメラ、パソコン、インターネットでの調査など） 発表の時、いつもは、ただ言うだけだったのが、分かりやすくとかで、実際の物を見せてできるようになったと思う。 ③ 景観学習を通して「江別」について発見したことは何ですか。（自分が調査したことでも、発表を聞いたことの中でもよいです。） 石狩川は良い景観もあるけれど、悪い景観もあるということ。石狩川には、いろんなはきはりがいること。 ④ もっと調べてみたいと思ったことは何ですか。 もっと、ゴミの量のこと。たとえば、年に何もゴミの量が出ているのか。税金を何万円かけて、ゴミを燃やしているのかなど… ⑤ 最後に景観学習を通しての感想を書きましょう。 私は、4年生の時に転入して生たので、分からないことがたくさんあったけど、景観学習で、江別のことが、すごく分かりました。また、いろんなところに行って、調べてみたいです。 ○最後に、景観学習を振り返っての感想・反省をワークシートにまとめました。 ○「江別の景観」と題した絵を描きました。	●景観学習を振り返るワークシートの作成 ●景観学習の全体を想起させた ●学んだ景観を「表現する」活動として、図工の時間に江別の景観の絵を描かせた 大麻中央公園を描いた絵

子供たちの感想

景観学習の感想・反省の主なものを紹介します。
※「景観学習の反省」シートから抜粋

頑張った学習活動は？

- 石狩川のたん生グループで、たん生についての資料が集まらなくて大変だったけど、集まるように調べるのをがんばった。
- まとめをする時にはっぽうスチロールを使ってレンガの模型をつくりわかりやすくまとめた。
- 校外学習での調査で、質問をたくさんしたり、写真をとったことです。
- 自分たちで日にちや時間をあわせて開拓記念館に調査をしに行ったこと。

できるようになったことは？

- わかりやすく人に伝える原こうを書くことです。今までは、本にあることをぬきだして読むだけだったけど、まとめられるようになりました。
- 現地の取材のときに人に道をたずねたり、つきそいの人にたよらずに目的地までたどりつけるようになった。
- デジタルカメラの使い方がわかった。インターネットで調べられるようになった。
- 今までは、もぞう紙に書いてあることをよんで発表してたけど、今は、げんこうをみて発表したり、自分の考えを書いてないことでも言うことができた。

江別について発見したことは？

- 江別ではきれいな景観もあるけど、中には石狩川のようにゴミがういてたり、魚の死がいがあったり、そこら辺にゴミが落ちてたりするところもある。けど、みんなが気をつければ江別はよくなるとかわかった。
- 江別は洪水が多くて街を発展させるのが大変だったけどすごい景観がたくさんある。そして自然にやさしくしようと努力しているようだ。
- 江別にはたくさん美しい場所があることがわかりました。江別で有名なレンガも色々な苦労や努力があって今のレンガがあるということがわかりました。
- 江別には長い歴史があって、だから今、私達がいるということ。
- 石狩川の動物が減っているけれども、そんな中江別の人々も努力をして、取りもどそうとしていること。
- 石狩川では、昔、川が曲がっていて、災害が多かった。けど、今は、川をまっすぐにして、災害がすくなくなったこと。

もっと調べたいことは？

- レンガの工場でインタビューしてみたかった。
- 今回は江別の酪農について調べたので、今度は北海道、日本、外国の酪農も調べたい。
- 大麻中央公園を全部まわって歩いて、自然とふれあいたいです。
- レンガを実際に作って、レンガづくりの大変さや、レンガを作りおわった時の喜びを知りたい。
- 自分の調べていない江別の景観について、次に機会があったら調べてみたいです。
- 百年記念塔がある野幌森林公園に関矢孫左衛門さんがいたころのこと。

景観学習を通しての感想

- 私は4年生の時に転入してきたのでわからないことがたくさんあったけど、景観学習で江別のことがすごくわかりました。また、いろんなところに行って調べてみたいです。
- 本当は知ってるけど、「江別にこんなところあったんだぁ！！」という感じで、新しい場所ができたみたいで楽しかったです。
- 最初は景観学習とはどんな学習かわからなかったけど、勉強してみたらとても楽しい学習でした。江別にはすごい景観がたくさんありました。日本の景観も調べてみたいです。
- 最初はふあんだったけど、やっているうちに楽しくなって、最後まで楽しかった。
- 江別には、ゴミがたくさんあるところで景観が悪くなっているけど、記念塔とか原始林とかきれいなところがある。それでもっとゴミが少なくなるように努力したい。
- 私たちが住んでいる江別もじまんできることがたくさんあることがわかりました。美しい場所や建物がたくさんあることがわかりました。このまま美しい場所や建物を残していくにはいろいろなことに気をつけていかなければならないと思いました。
- 私たちのすてきな町を残していくには私たちの「努力」が必要なんだなと思いました。これからはよい町づくりに協力していきたいです。又、新しい発見ができとても良い経験になりました。

大麻・文京台
青少年ふれあいフェスタで発表

景観学習に関連する活動

学芸発表会では、江別の歴史を太鼓で表現。まちの変遷も紹介しました。

全校朝会でのポスターセッション

宿泊学習での枝打ち体験

景観学習を振り返って（先生の感想）

景観学習では、江別の歴史から学習を進めました。「石狩川の変容」・「百年記念塔の建設理由」・「レンガについて」などを、実際に見て、聞いて調査をしました。その結果から、美しい景観を守るためには、自分たちの努力が大切だということに気が付きました。

この景観学習を通して、子どもたちは、自分たちが住んでいる江別の魅力やすばらしさを再確認することができました。

（江別市立大麻西小学校　5年担任　山本　麻千子）

「景観学習」を通して、子どもたちの「江別に対する愛着」や「地域に対する愛着」の深まりを感じました。それは、江別市民一年目の私にとっても同様のことでした。

「景観」を基盤に、まちをよく知り、まちのよさに気づき、自分たちのまちを誇りに思える…。そんな学習への取り組みだったと考えています。

（江別市立大麻西小学校　5年担任　山本　貴幸）

（2）網走市立呼人小学校（5・6学年、16名、11時限）

地域の大人たちと一緒に学習

網走市立呼人小学校5・6学年の総合的な学習の時間で、国道39号沿いの市街地の周りに農地、樹林地の景観が広がる地域を中心に景観ウォッチング、花壇づくりを行い、網走らしい景観、呼人をよくすることの大切さを学びました。

学習の進行にあたっては、北海道網走支庁が実施しているまちの景観に関心のある地域の大人たちで構成する「景観担い手塾」のメンバーがゲストティーチャーとして参加し、豊かな自然や地域の歴史などを子どもたちに伝えました。子どもたちは、地域を好きになることの大切さを学習し、総合的な学習の時間のテーマである「呼人をよく知る」「呼人をよくする」の実践として景観ウォッチングや花壇づくりなどを行いました。

＜学習のあしどり＞

○景観について事前学習を行い、4班に分かれて学校周辺、国道39号沿いの呼人市街を散策し、好きなもの、きれいなものをデジカメで撮影しました。

○ウォッチング終了後、撮影した写真を使ってよいと思った周辺の自然やまちの景観を紹介しました。

○子どもたちから現状が寂しいと指摘された、学校隣のコミュニティセンター前で花壇づくりをしました。

○植える花の種類や花壇のデザインは「景観担い手塾」のアドバイスを受けながらみんなで考えました。

○身近な学校周辺から網走市内に子どもたちの関心が広がり、バスで天都山、網走川などをウォッチングしました。

○子どもたちが学習したことを「呼人ウォッチング」「網走湖の環境」、「流氷のできるまで」、「クリオネ」にまとめ、発表し合いました。発表会には、「景観担い手塾」のメンバーや保護者も参加しました。

◎ 景観学習を振り返って（先生の感想）

「We Love YOBITO」をテーマにして、普段見慣れている身近な景色を見つめ直し、自分たちの住んでいる呼人の環境のよさに気づいてほしいと思いながら学習を進めました。

子どもたちの目線で呼人の素晴らしい自然環境を再確認できたことと思います。景観担い手塾の皆さんと交流しながら、子どもたちは多くのことを学びました。この学習を通して、呼人のよさを守るために、自分でできることを積極的に活動していく態度や心情がさらに育ってほしいと思います。

（網走市立呼人小学校　5・6年担任　武村　正之）

（3）鹿追町立笹川小学校（全学年、20名、延べ32時限）

生活科、理科の時間も活用して全学年で展開

畑作農業が盛んな十勝支庁管内鹿追町の子どもたちが、自然観察や野菜・花の栽培、校庭の花植えを通じて、季節とともに移り変わる身の回りの景観の美しさ、身の回りの環境をきれいにすることの大切さを学習しました。

本学習は、十勝支庁の「景観の視点を取り入れた学習」モデル事業として行われ、総合的な学習の時間を活用した「畑の学習」と生活科や理科の時間に、景観の視点を入れて実施しました。

＜学習のあしどり＞

[高学年]

○先生から子どもたちに景観作物としてひまわり畑を作っている事例を紹介し、自分たちで作っているかぼちゃ畑の周りにひまわりを植えることにつなげました。

○かぼちゃとひまわりを育てる過程で、子どもたちがかぼちゃ畑やまわりの景観を「きれいだ」「すてきだ」と思うようになったり、これからも学校を飾ったりきれいにしてみたいと考えるようになりました。

○畑づくりを通じて分かったこと、ひまわりで景観づくりを進めたことを劇にし、学習発表会で披露しました。

[低・中学年]

○低学年では、かぼちゃ畑の観察の他、自然観察や自然遊び（保育所の子どもたちと交流しながら草花で帽子や首飾りなどをつくる）、特別老人養護ホームの花壇の花植えなどに取り組みました。

○見て感じたこと、分かったことは、観察日記にまとめたり、劇にして学習発表会で披露しました。

◎ 景観学習を振り返って（先生の感想）

前年度までの「畑の学習」では、「作物を育て、収穫し、調理する」という流れの中で、勤労や観察、収穫に重点が置かれていましたが、「まわりの自然の景観」「四季の移り変わり」などの環境という今までと違う視点が加わることにより児童の学習の視野がぐんと広がりました。

雄大な自然とその美しい景観を身近な視点として取り入れることの大切さを学ぶとともに、表現活動で伝えることにより、学習がさらに深まりました。多角的な視点により「学ぶ楽しさ」を知り、次の学習への発展につながりました。

（鹿追町立笹川小学校　教頭　山本瑞聡）＜平成15年度＞